

平成31年度
事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名			
01	10	05	08	104560	民俗芸能伝承支援事業費			
総合計画	分野	03	人づくり	政策	05 芸術文化の振興			
	施策	04	民俗芸能の伝承					
目的	民俗芸能の保存伝承							
対象	民俗芸能を伝承する団体及びその伝承者、後援会等の支援者、地域住民							
意図	伝承者が育成され、民俗芸能が保存される。							
事業概要	<p>郷土芸能鑑賞会の開催 2,771千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花巻市郷土芸能鑑賞会・早池峰神楽ユネスコ無形文化遺産登録10周年記念公演 ・花巻市青少年郷土芸能フェスティバル ・古民家活用郷土芸能鑑賞会 ・大迫郷土文化保存伝習館公演 ・みちのく神楽大会 <p>民俗芸能団体との意見交換会の開催 20千円</p> <p>民俗芸能全国組織への参加 55千円</p>							
市民参加の有無	対象外							
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託		
活動指標			単位	区分	H30	H31	R02	
1	郷土芸能公演の事業実施数			回	計画	4.00	5.00	
					実績	4.00	5.00	
2	地域づくり交付金により郷土芸能団体の支援を行う地域コミュニティ会議の数			地区	計画	27.00	27.00	
					実績	16.00	16.00	
3					計画			
					実績			
成果指標			単位	区分	H30	H31	R02	
1	郷土芸能公演の入場者数			人	目標	1,800.00	2,200.00	
					実績	2,180.00	2,340.00	
2	指定無形民俗文化財の数			件	目標	57.00	56.00	
					実績	55.00	55.00	
3					目標			
					実績			
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い		

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
郷土芸能公演の入場者数は、毎年の開催を楽しみにしているファンや、出演団体の呼びかけ等により、一定数を確保できている。また、出演団体の選定にあたっては、神楽や鹿踊り、田植踊りなど各種の芸能を網羅していることから、市民にとっては、一度に様々な民俗芸能を鑑賞できる場として、各団体にとっては、日頃の活動の成果を発表できる場として、定着している。 指定無形民俗文化財の数については、伝承者が指定を受けていることを強く意識し、後継者の育成に努めているため、現状数を維持できているものと思料する。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	鑑賞会事業は市の主催事業であり、各地域を代表する民俗芸能団体や、また、学校教育の一環として郷土芸能を積極的に取り入れている多くの小学校等が出演している。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	地域コミュニティ会議や小学校等が、積極的に民俗芸能保存団体並びに伝承者を支援することで、発表の機会の創出、保存意欲の向上につながる。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	市の人口が年々減少傾向にある中で、青少年による民俗芸能伝承活動に対する積極的な支援が、地域発展の支えとなっていることから、経費の削減は地域コミュニティの沈滞を招き、市にとっても大きなマイナスイメージとなる。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	市の広報紙やホームページ、各地域の振興センターや公共施設等を通じ、公平な情報の提供に努めている。鑑賞会事業の出演にあたっては、地域バランスを考慮しながら各地域の民俗芸能団体等に呼びかけを行い、公平性に努めている。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
	適正である	
総合評価	今年度の振り返り	郷土芸能鑑賞会の開催により、民俗芸能団体における後継者育成活動が図られたとともに、今年度は、早池峰神楽ユネスコ無形民俗文化遺産登録から10年の記念の年であったことから、登録10周年記念公演とし、多くの市民等に鑑賞いただいたことで、観光振興や地域振興にも成果を上げた。 民俗芸能団体との意見交換会では、後継者の確保や活動にあたり各団体の抱える課題と意見を伺うことができ、市の施策の参考となった。
	次年度に向けて	民俗芸能の保存伝承のためには、市民への普及を図ることと、継承者のモチベーションを高めるため、公演の機会を設けることが重要であることから、新型コロナウイルス感染症の影響が懸念されるが、次年度も引き続き、公演事業を実施していく必要がある。 特に、将来の後継者となることが期待される青少年への、民俗芸能の伝承・普及活動が重要と考えることから、青少年の公演を継続するとともに、小中学校への民俗芸能の普及の機会を設けることとする。